

Y16b 「長野県は宇宙県」の活動について

衣笠健三 (国立天文台野辺山), 大西浩次 (長野高専), 小林尚人, 青木勉, 森由貴 (東大木曾観測所), 百瀬雅彦, 宮地美由紀 (塩尻星の会), 丸山卓哉 (大町エネルギー博物館友の会), 陶山徹 (長野市立博物館), 吉住千亜紀 (飯田市美術博物館), ほか「長野県は宇宙県」連絡協議会

「長野県は宇宙県」を合言葉として、長野県がもつ「宇宙に近い」というすばらしい資産を共有し、この魅力を広く伝えるための活動を行うための組織を、2016年11月に信州大学松本キャンパスにて、長野県の天文研究者や教育関係者だけでなく、科学館等の職員、天文同好会メンバーなどとともに設立した。これまでに長野県全体の学官民の連携体制を構築し、松本宣言(「長野県は宇宙県」HP参照)にある「長野県の地域振興、人材育成、観光、天体観測環境維持に寄与することを目的とする。」を踏まえて、いくつかの活動を展開している。まず、「長野県は宇宙県」ミーティングを年に一度実施し、次期活動方針や活動報告を行い相互の情報共有のほか、公開講演会など一般県民への啓蒙活動も行なっている。また観光面においては、県内での天文・宇宙関連の活動や星空環境を周知することを目的として、毎年夏から秋において県内の施設や観望会などを繋げたスタンプラリーを実施しており、毎年推定で15000人の参加者がある。環境維持に関しては、長野県星空継続観察ワーキンググループを立ち上げ、環境省が実施する全国星空観察に同期して県内の夜空の暗さ調査を実施している。その測定点は全国全体の約三分の一を占め、全国最多である。さらに、長野県の天文文化史について情報交換や議論をするワーキンググループ長野県天文文化研究会を立ち上げ、「宇宙県」のルーツとなる近世や近代における県内の天文活動を調査しようとしている。人材育成についても、長野県星空ガイド講座としてガイド育成講座の構築が始まったところである。本講演では、「長野県は宇宙県」のこれらの活動をまとめて報告する。